

ひぜんだより

肥前精神医療センター総合情報誌

第13号



平成 25 年 6 月



平成 25 年 8 月



平成 25 年 10 月

2013.11

病棟建替工事が いよいよスタートしました！

企画課長 佐藤 義実

安全祈願祭

今回の病棟建替の基本方針について、機構本部の承認を頂いたのが平成 22 年 12 月ですから、既に 2 年 6 ヶ月が経過しています。この基本方針の確定までも多くの検討がなされたことは、私の前々任者の引継書にすでに記載がありますので、推して察するところです。方針承認後もスタートの基本設計こそ予定どおり完了したものの、実施設計の段階では内容変更などもあって 1 年以上を費やし、更に不調による二度の入札を経てやっと契約が整い本体工事に着手する日を迎える事ができた訳です。

安全祈願祭当日、5月23日木曜日午前11時、快晴。時候の挨拶では新緑、若葉と本来この時期は清々しい季節なのですが、始まるまでは「…あれは大丈夫だろうか？」と祭壇に供えられた大きな鯛が妙に気になる暑い日でした。

病院南側の第Ⅰ期工事区域に張られたテントの中、当院からは院長、橋本副院長他の幹部職員と工事担当職員、工事実施者側からは設計監理、建築、機械設備、電気設備の各社代表合わせて総勢約 40 名が、設えられた祭壇前に整列し、神職の安全を祈る祝詞と凜とした所作に導かれながら厳かに安全祈願祭が営まれました。



当院の目指す姿

今回の工事は、途中遺跡の発掘調査を挟んでⅠ期とⅡ期に分かれ、これから完了まで更に 2 年 6 ヶ月を要します。安全で快適な入院・治療環境を提供するために、建築から 40 年以上経過した病棟などを建替えます。来年 2 月には重心病棟はじめ 5 棟が、再来年 6 月には残りの建物が完成し、外来管理棟など一部を除いて一新と言えるほどの新たな環境に変わります。

さて、私達職員はどう変わるでしょうか。「部分最適と全体最適」という考え方があります。多くは経済用語として使われますが、「組織の中で各セクションがバラバラに最適化されても全体ではむしろ

効率低下を招く。各セクションが部分ではなく全体最適を目指すことで組織全体の効率・生産性が上がる。」というもので、そのためには「全体最適」の姿を示す必要があります。

ホームページの中で院長が当院の目指す姿を掲げています。「一言で言えば、患者さんからも医療者からも選ばれる病院です。求めているものが叶えられ、おいで頂いた方にご満足いただける病院でもあります。『ひぜん』は、オールラウンドの先駆的・高度な精神科臨床だ

けではなく、創造的な臨床研究、全国に向けて情報発信を行う研修、精神科医療の将来を担う人材の育成をも行えるわが国随一の精神科医療施設を目指しています。」

当院は各種の経営指標で見比べる限り、決して優れたNHO病院ではありませんが、「わが国随一の精神科医療施設を目指しています。」この病棟一新を好機として、職員一人一人が当院の目指す姿に向けてさらに進んで考え行動すれば、今以上に「選ばれる病院」になり「ひぜんの理想形」に大きく近づくものと思います。

今回の病棟群の整備が終われば、引き続き外来管理棟など残る部門の整備計画に取りかかりたいと切望しています。これまでの間、機構本部、ブロック事務所の皆様、職員の皆様はじめご支援ご協力いただきました多くの方々に感謝申し上げますとともに、これからも引き続きご支援下さいますようお願いいたします。



佐賀県 吉野ヶ里町

ところで、ご存じの方も多いと思いますが、当院は有名な吉野ヶ里遺跡群の只中に建っており、敷地の全てが「西ノ田遺跡埋蔵文化財包蔵地」として指定されています。そのため基礎工事を伴う全ての工事に、もれなく教育委員会による埋蔵文化財発掘調査が付いてきます。実際、今回の病棟建替工事の前段である準備工事でも発掘調査が行われ、その結果、写真のとおり建物の柱の遺構がざくざく出てきました。工事が中断してしまうのではないかと冷や汗ものでしたが、幸いこの辺りでは大して珍しいものではないとのことで、大がかりな発掘調査には至りませんでした。

今は周囲に多くの田畑を望む田舎風景ですが、弥生時代にはなかなかの都会だったようで、遺跡の案内文によれば「我が国最大の遺跡」「弥生時代における『クニ』の中心的な集落」と書かれています。今回の本体工事の中でも来年6、7月に発掘調査を予定していますが、弥生の人々からの、とんでもないプレゼントが出てこないよう祈るばかりです。



3. 遺構発掘作業 (7区)



8. 遺構発掘作業

就任のご挨拶

統括診療部長 須藤 徹

統括診療部長というポストは、国立病院機構の病院の中でも一定規模以上の病院にしか認められていない役職で、精神科単科病院にはほとんどない役職です。本部での新任統括診療部長研修を、6月に受けてきましたが、九州医療センターや東京医療センターといったそうそうたる顔ぶれが揃っていて、あらためて国立病院機構の規模の大きさを感ずるとともに、肥前精神医療センターにこの役職が認められた意味をかみしめました。



統括診療部長という役職の存在自体が、機構内ひいては全国の精神医療の中での当院の位置を表す象徴だと思っています。肥前精神医療センターが病院としての一精神科医療センターにとどまらず、全国の精神科医療の指導的役割を果たすことが求められているのでしょう。今後も秀でた専門性と、時代に即応できる機動性をもちうる総合性の両立が課題です。

新任者紹介

本年4月1日付で当院の臨床研究部長に就任いたしました上野 雄文先生をご紹介します。

Q1. プロフィールを教えてください。

九州大学医学部卒業、国立熊本病院、熊本赤十字病院、久留米大学病院をへてスタンフォード大学医学部博士研究員。帰国後、九州大学大学院医学研究院特別教員、特任助教、特任講師、特任准教授。高知大学臨床准教授兼任。平成25年4月より現職。



Q2. 医師として、精神科を選択されたのはなぜですか？

脳科学に興味があったこと。救命救急センターで働く中で精神科が殊に重要と考えたこと。

Q3. お仕事で、今一番関心を持たれていることは何でしょうか？

脳の情報ネットワーク、情報処理。つまり神経細胞の全か無かの情報処理が連続関数としての情報処理にオーガナイズされるのはなぜかという研究。その中で統合失調症に見られるような情報処理の変容がなぜ起こるのかということ。そして薬物がこの情報処理に与える影響がどのように治療に生かされているのかということ。そのために神経画像をツールとし、脳機能研究におけるバックグラウンドの数学の構築に関心があります。

Q4. では、プライベートで、今、一番の関心事は？

音楽鑑賞。囲碁。ラグビー観戦。

Q5. 肥前に来られて、印象は如何でしょうか？

大変広大な施設で将来の可能性を感じました。臨床研究が進められる環境にあると思いました。

最後にこれからの抱負をお聞かせ下さい。

皆さんの力をお借りしながら、研究を進めてまいりたいと思います。ご協力よろしくお願いいたします。

新しいリハビリテーションを展望

作業療法士長 福井 基孔

肥前精神医療センターでは平成25年4月より身体ケアチームを発足させ、精神科リハビリテーションと並行して身体的リハビリテーションを本格的に実施することになりました。それに伴い、4月からは作業療法士だけではなく、言語聴覚士や理学療法士を迎えて、主として身体的な問題を持つ方々への取り組みを始めました。今年の課題は身体・精神を統合したリハビリテーションの推進です。精神だけで生活している人はいません。また身体だけで生活する人もいません。リハビリテーションが「人が生きてゆくこと」、「生活をしてゆくこと」を目指す以上、心身を統合したリハビリテーションサービスはごく当たり前のことです。

当たり前のこととは言っても、九州の国立病院機構の病院ではまだこのような精神科リハビリテーションと身体的リハビリテーションを統合（融合）させる試みはありません。全国的にみても珍しい取り組みです。肥前精神医療センターリハビリテーション科の新しい挑戦がスタートしました。リハビリテーションのハイブリッドとでも言えば良いのでしょうか。単に精神科病院で身体ケアが始まったということを超えること。これを目指します。

少しかだけスタッフを紹介致します。



主任作業療法士 佐藤 千紗



理学療法士 高橋 亜由美



理学療法士 水城 達也



言語聴覚士 佐伯 直子

主任作業療法士の佐藤は南九州病院から参りました。これまでは発達障害の分野で経験を積んできました。重症心身障害病棟での取り組みや、高齢者のリハビリテーションの中にも生涯発達の理念が息づいてくることを期待しています。

理学療法士の高橋は福岡東医療センター、東佐賀病院での勤務を経験して肥前に参りました。身体障害分野リハビリテーションについての豊富な経験は、どうしても精神的に偏りがちな当院の現状に新風を入れてくれています。

同じく理学療法士の水城は大分医療センターから参りました。彼は若いスタッフです。早くも精神科分野のスタッフと交流、意見交換を始めてくれています。このような日常的な交流の中から新しい融合が始まるのだらうと思います。

言語聴覚士の佐伯は民間病院勤務を経て、昨年9月に当院に採用されました。言葉の問題だけではなく、嚥下の問題を持っている方への関わりを始めています。食べることは誰にとっても必要なことであり、そして楽しいことでもあります。彼女の仕事は今後、一人一人のコンシューマーの生活の楽しみにつながっていくことでしょう。

今、肥前でそんな当たり前のリハビリテーションが始まっています。ご期待ください。

新しい研究室、生まれました。



命名「脳生理・神経画像研究室」



精神科医師 岡本 宙

fMRI 解析結果の一例



64 チャンネル脳波計



研究室長：上野雄文（臨床研究部長）

研究室員：久我弘典、小池桃子、勢島奏子、岡本宙

共同研究機関：九州大学、ハーバード大学

多くの方が MRI（核磁気共鳴画像法）という検査をご存じかと思います。実際に受けられたことがある方も多いのではないのでしょうか。頭部 MRI は被ばく等のリスクを伴わずに脳の姿形を見ることができる「写真」のようなもので、認知症、脳血管障害、脳腫瘍などの診断にごく一般的に広く利用されています。

では、ファンクショナル MRI (fMRI) という言葉を耳にしたことはありますか？ ファンクショナルとは「機能的」という意味で、神経活動が高まった時の局所的な脳血流の変化を捉えることにより、通常の MRI では写せない脳の様々な場所の「機能」を見る先進的な検査です。肥前では去年から MRI の改造をひそかに進め…今年度より fMRI として使えるよう仕立て上げました。そしてそれに伴い「脳生理・神経画像研究室」が発足した次第です。

この fMRI、そしてハーバード大学精神科と共通の 64 チャンネル脳波測定システムにより、統合失調症、気分障害、発達障害などの精神科の病気において脳の中で何が起きているのか…？ 肥前は今、このブラックボックスに挑むとても強力な武器を手に入れました。

脳機能画像による精神疾患の研究は今最も hot な分野の一つです。しかしこれまでそういったことは一部の大学などの限られた研究機関でしか行えませんでした。そこに肥前も参入！というわけです。肥前の強みは、とにかくたくさん患者さんがいらっしゃるということです。多くの患者さんにご協力頂くことで、“HIZEN” から精神疾患の診断や治療に役立つ世界的な発見が生まれるかもしれません。まだ生まれたての小さな研究室ですが、九大精神科、ハーバード大学精神科とも連携して試行錯誤しながら、研究室員一同、大きな夢を描いております。

研究の対象となり得る患者さんには、お声をかけさせて頂くことがあるかもしれませんが、詳細はその際にご説明致しますが、途中、音を聴いたり絵を見たりするなどを頂く以外は、基本的に通常の検査と同様ですので、ご安心ください。また、いずれの検査も通常の MRI や脳波検査の一環として行いますので、+α の費用のご負担は発生致しません。精神医学の発展のため、一人でも多くの方にご協力頂けると幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。



吉野ヶ里町健康福祉フェスタに参加して

専門職 三角 正一

4月21日(日)に東脊振健康福祉センター(きらら館)におきまして「吉野ヶ里町健康福祉フェスタ」が開催されました。

当院からも看護部、事務部、OT室、総勢20名で参加しました。地域の方々との交流、親睦を深め、また、肥前精神医療センターのPRを図る絶好の機会でもあり、毎年参加させて頂いております。

内容は、チェックコーナーとして、アルコールパッチテスト、CoreAUDIT、認知症：トレールメイキングテスト。ゲームコーナーとしてボーリングゲーム、カルタ大会を用意しました。また、できるだけ多くの皆様にきて頂くために、動物の着ぐるみを着ての会場外からの呼び込み、風船配り等を行いました。

当日は、晴天にも恵まれ数多くの方が来場され、当院のブースも約200名以上の方が参加されました。参加頂いた皆さんにアンケートをお願いし、132名の方から回答を頂きました。その中の意見で「自分の健康状態が確認できて良かった」、「大人も子供も楽しめた」、「脳トレが楽しかった」、「景品が良い」等のご意見を頂きました。

また、「このような催しに積極的に参加してオープンな病院にしてほしい。」というご意見も頂き、精神病院という閉鎖的なイメージがあることを実感しました。今後の地域への活動を行っていくうえで参考になるご意見でした。

健康福祉フェスタに参加した職員にとっては、当院を利用される患者様だけでなく、地域の方々ともふれあうひとときが持てて良い刺激になりました。

今後も吉野ヶ里町健康福祉フェスタへ参加することで、地域の皆様の声を直接聞く機会になりますし、肥前精神医療センターのことを少しでも知って頂き、地域の方々の健康の増進にお役に立てれば幸いです。

来場者数は以下のとおりです。

アルコールパッチテスト：98名

CoreAUDIT：22名

トレールメイキングテスト：71名

ゲームコーナー：180名



「看護の日」イベントを 開催しました

生活療法・行事調整委員会 看護師長 平尾 幸一

今年もナイチンゲール誕生日にちなんだ「看護の日」のイベントを、去る5月14日、地域貢献活動の一環として、当院玄関前で催しました。

生活療法・行事調整委員会のメンバーで、外来患者やその家族を対象に、血圧・骨密度・体脂肪測定、健康相談などを行いました。

血圧測定は触れ合いを大切にしたいという思いから、あえて自動測定器を使わず会話をしながら丁寧に行いました。「今日はいつもより高か～、もう一回測って～」と、受診の帰りに来られる方もいらっしゃいました。

骨密度は日頃測定する機会がないのでとても興味を示され、骨密度が低い方には食事療法と運動の大切さについて説明しました。

今年の参加者は64名でした。昨年は参加の記念として花の苗を差し上げましたが、今年は歯磨きセットに変え大変好評でした。



フラワーフェスタを開催しました

作業療法士 大黒 陽蔵
落石 紗織

今年も6月11日にフラワーフェスタを開催しました。今年は『ミニ野球ゲーム』・『輪投げゲーム』を行いました。このミニ野球ゲームは、机の上に置かれたボールをバットで打ち、床にセットされた「1塁打」・「2塁打」・「3塁打」・「ホームラン」などと書かれた板を狙うゲームです。倒した板の分だけ実際に塁に出てもらい点数を競います。

今回は14チームの参加がありました。各々のチームが新聞紙で作成したオリジナルバットを持ち寄り、思いっきりボールを打つ姿はとても迫力がありました。車いすの方も多く参加して頂き、応援や歓声で会場は活気にあふれていました。優勝は東3-1病棟でした。ユニークなバットや盛大な応援をしたチームには「ナイスバット賞」・「ナイス応援賞」が授与され最後まで楽しい大会でした。

輪投げゲームも同じく14チームの参加があり、高得点を狙って真剣に輪を投げていました。こちらも大変盛り上がり、優勝は西1病棟でした。

今年のフラワーフェスタは参加者130名を超える大きな行事となりました。





第25回肥前精神医療センター 臨床研究部報告会について

生化学研究室長 八尾 博史

第25回臨床研究部報告会は平成25年6月28日(金)午後2時から例年通り開催されました。黒木俊秀前臨床研究部長が九州大学実践臨床心理学教授として転出され、上野先生が4月から新臨床研究部長に就任されました。そういった久しぶりの急変の中、今回のもっとも大きな目玉は、脳生理・神経画像研究室の立ち上げについての報告と上野雄文臨床研究部長による特別講演「神経画像研究への道～これまでを振り返って」でした。

数学的背景を生かしてデジタル情報としての画像処理は、当臨床研究部では新規の、また強力な研究戦略として注目を集めています。

各研究室からの発表も例年より熱をおび(運営側の不手際で時間超過してすみませんでした)、特に統計処理に工夫をこらしたものが増えてきたようです。

研究内容は年々充実してきているので、今後は原著論文(査読があり、学術論文誌で公刊される新規性の高い論文)をより多く出してほしいと期待しています。

第25回肥前精神医療センター臨床研究部研究報告会

日時：平成25年6月28日(金)14:00～
場所：肥前精神医療センター(2階 TV 会議室)

(司会：上野雄文)

- ◆ 開会の挨拶 上野雄文
- ◆ 臨床研究部の24年度業績と会計報告について (14:05～14:15) 八尾博史、山本佳代、上野雄文
- ◆ 脳生理・神経画像研究室 (14:15～14:25) 座長：上野雄文
『脳生理・神経画像研究室を立ち上げて』 久我弘典
- ◆ 高次脳機能研究室 (14:25～14:45) 座長：橋本学
『脊髄健診 15年のあゆみ』 高島由紀
『外傷性脳損傷による高次脳機能障害者における「心理的構え」が社会復帰に及ぼす影響』 橋本学
- ◆ 行動科学研究室 (14:45～14:55) 座長：武藤岳夫
『薬物依存症外来治療グループ「SHARP」プログラム実施と効果測定
～6年間のまとめ～』 中島 薫
- ◆ 生化学・薬理研究室 (14:55～15:15) 座長：橋本喜次郎
『抗精神病薬による多剤併用療法について：動物実験による評価』 中原辰雄
『統合失調症の治療反応性マーカーとしてのトランスサイレチン：プロテオミクスによる
予備的解析』 中川伸明(八尾博史)
- ◆ 社会精神医学研究室 (15:15～15:35) 座長：橋本喜次郎
『地域精神科医療の機能分化と連携を支援するデータベース構築に関する研究』 猪股晋作
『万象における文脈の高低に関する考察と精神科臨床と研究における仮説の提言』 猪股晋作
- ◆ 司法精神医学研究室 (15:35～15:55) 座長：須藤徹
『医療観察法病棟に対するアンガーコントロールアプローチ ～他罰的傾向にある対象者への
セルフモニタリングシートを用いた看護面接の効果～』 浦 由希子
『医療観察法入院処遇対象者の服薬アドヒアランスに関する研究
～DAI-30回項目7因子に着目した多面的な検討～』 河野久美子
- ◆ 精神看護研究室 (15:55～16:15) 座長：山崎珠美
『動く重症心身障害児(者)病棟で働く看護師の感情と職業性ストレス』 樋口裕也
『肥前精神医療センターの3病棟における与薬手順変更結果について』 徳永二美代
- ◆ 心理研究室 (16:15～16:35) 座長：西原礼子
『児童思春期病棟における不登校児に対する入院治療プログラム「つくし合宿」について』 辰野陽子
『NHQネットワーク共同研究「強度行動障害を持つ重度精神遅滞児(者)の専門的治療と
移行支援に関する研究」中間報告』 會田千重

特別講演 17:00～ (座長：橋本喜次郎)

演 題 『神経画像研究への道～これまでを振り返って』

講 師 上野雄文 臨床研究部長

- ◆ 閉会挨拶 村 岳文

※質疑応答を含めて1演題10分です。



こんにちは わたしたちは “コスモスの会” です

DV という言葉をご存じですか？

DV とは…ドメスティックバイオレンスのことです。

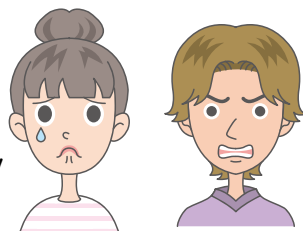
DV とは ①親密な間柄に起こる身体や精神などへの暴力

②力の差による支配

③中学生や高校生のような若いカップルの間でも起きている デート DV

④対等な関係で起きるけんかとは違う

といわれています。



2009 年の内閣府の男女間における暴力に関する調査結果では、精神的・身体的・性的暴力のいずれか一つでも被害体験があると回答した女性は、33.2%でした。

暴力を受けた時、その有無と相談先について「相談しなかった」と答えた人が 69.1%と最も多く、公的な機関（警察・病院・市町窓口など）への相談は、各機関とも 5%以下と少ないのが現状です。被害が公的相談窓口につながっているケースはごく一部で“まだ潜在化している”という調査結果が出ています。

DV 被害者への支援は、全国的にまだまだ十分に行えておらず、佐賀県はとくにシェルターもまだありません。シェルターを所有していない県は全国で2県だけです。

肥前精神医療センターの外来では、平成 21 年頃より DV 被害者の方々が、「眠れない」・「動悸がする」・「生きていても仕方がない」…といった精神的な苦痛を呈し受診される件数が急増しています。このような背景を受けて、平成 21 年 11 月当院外来で DV 被害者の会『コスモスの会』を発足しました。外来受診をされた際に、ご相談のうえコスモスの会への参加の提案をさせていただいております。

発足時より2年ほどの間に約 60 名以上の参加がありました。コスモスの会では、自分の思いを素直に表現していただくために、いい意味での“言いつぱなし”“聞きっぱなし”を基本としています。会で話していただいたことは、【決して外では話さない】というルールで安心して参加していただけるように支援しています。

現在参加されているメンバーさん、スタッフのメッセージを紹介します。コスモスの会は、ひとりでも多くの方の支えの場になりたいと思っています。どうぞお気軽にお問合せ下さい。

◆利用者からのメッセージ◆

- ・一人で悩まないでください。
- ・分かってくれる人がいます。
- ・ほっとできる場所です。
- ・こういう場があることが私にとってすごく励みになります。
- ・初めて参加して同じ境遇の人と話せてよかった。
- ・コスモスの会にきて自分だけではないということが分かって安心し勇気ができました。
- ・人生をあきらめていましたが、ここにきて解決の糸口となりました。第2の人生のチャンスにつながりました。ありがとうございました。
- ・ここにきて同じ体験と同じ怒りを持った人に出会って、癒され、ともに前に進めました。悩みが大きく重たいのでもう少しゆっくりと話をしたいと思います。

◆スタッフよりメッセージ◆

- ・一緒に新しい生活を考えていきましょう。ともに頑張っていきましょう。（精神保健福祉士 辻本）
- ・コスモスの会で女性の持つしなやかさ、感受性、共感性、そしてたくましさを変えて実感しています。安心できる心地よい場所です。（心理療法士 森田）
- ・それぞれの方々の被害の大きさに、家庭が安心できる場所でないことに深い悲しみを覚えています。コスモスの会が皆様の失われた信頼を取り戻せる場になればと願い参加させてもらっています。（アバンセ相談員 溝口）
- ・スタッフの温かい支援のもと和やかな雰囲気で開催しています。参加者の皆様、みんなで“普通”の生活と幸せを目指しましょう。（医師：吉森）

肥前セミナーを開催しました

【第 97 回 平成 25 年 6 月 6 日開催】

生化学研究室長 八尾 博史

第 26 回国際脳循環代謝学会が上海で開催され、これに合わせて Zhao 先生に当院に立ち寄っていただき、「Brain Mapping for Experimental and Clinical Neurology From Engineering Perspective」のタイトルで画像解析について講演していただきました。

Zhao 先生はマイアミ大学で学位を取得した後、1991 年から神経内科 (Prof. Myron D. Ginsberg, M.D.) でポストドクとして (ポストドクをどこでやるかは大変重要です) 脳血流や代謝画像の解析を行い、ちょうどこの時期に留学した私も同じラボで 2 年間で過ごしました。

長い付き合いではありますが、研究につき改めてお話を聞く機会はありませんでしたので大変勉強になりました。また (雑談ですが)、最近のアメリカのグラント環境が非常に厳しくなっていることなど (新規採択率 10% 以下!)、Zhao 先生がマイアミ大学で週 4 コマ担当している講義は 1 コマ (75 分) 学生一人当たり \$200 を払っている勘定となる (アメリカの大学の授業料は高い) など、いろいろとアメリカ最新情報を教えていただきました。



Weizhao Zhao, Ph.D.

【第 98 回 平成 25 年 6 月 29 日開催】

臨床研究部長 上野 雄文

ハーバード大学精神科主任教授マッカッリー先生にご講演を頂きました。マッカッリー先生の教室には、世界中の俊才が集まります。ハーバードに 4 人しかいない終身教授のお一人で、世界的に著名な先生なのですが、人柄は気さくな先生で、日本にも多くの教え子がいらっしゃいます。

今回のセミナーでは統合失調症スペクトラムの脳の構造・発達について特に臨床的な立場からお話いただくことが出来、聴講者からは活発な討論をいただきました。統合失調症者では微細な構造であるが MRI 画像上で萎縮の所見がとれること、脳波を用いて GABA に関する検査ができることなどをお話になり、今後は統合失調症スペクトラムの患者にて検査を進めていくことや MR スペクトロスコピーの可能性などにも言及されました。

大変わかり易く、また今後の臨床に直接関連のあるお話で、肥前精神医療センターでも今後の臨床研究に大変参考になりました。



Robert W. McCarley, MD

これぞ一枚!シャッターチャンス

庶務係長 大庭 直樹

4 月のある朝、大量のミツバチが発生していると病棟から連絡がありました。病棟へ駆けつけると、中庭にあるベンチにドッチボール位の大きさの茶色い物体がぶら下がっています。恐る恐る近づいてみるとそれはミツバチの集団でした。専門の業者に相談したところ、春になるとミツバチが巣を作る場所を求め、住まいが見つかるまで集団で移動していくのだそうです。そして集団の中心には女王蜂がいます。

基本的にはこれらのミツバチの集団は 2, 3 日すると次の場所に移動するため、放っておいても良いそうですが、多くの患者さんが利用される中庭ですので、安全確保のため駆除をお願いしました。正確には駆除ではなく捕獲です。生きたまま木箱に入れて持ち帰り、うまく行けばミツバチたちは蜜を集め、美味しいハチミツを得ることが出来るそうです。

ちなみに今回のミツバチの数、業者の方によれば、ざっと 1,000 匹位はいるのではないかとのことでした。



(ミツバチの集団)



(捕獲の様子)



臨床研究部の
上野です

目 次

- P.1-2 病棟建替工事がいよいよスタートしました！
- P.3 就任のご挨拶・新任者紹介
- P.4 新しいリハビリテーションを展望
- P.5 新しい研究室、生まれました
- P.6 吉野ヶ里町健康福祉フェスタに参加して
- P.7 「看護の日」イベントを開催しました
フラワーフェスタを開催しました
- P.8 第25回肥前精神医療センター臨床研究部報告会について
- P.9 こんにちは わたしたちは“コスモスの会”です
- P.10 肥前セミナーを開催しました
これぞ一枚!シャッターチャンス

◆編集後記◆

暑かった夏が過ぎ、朝晩がめっきり冷えるようになってきました。当院は只今新病棟建築工事の真っ直中。これから厳しい冬を迎えますが、暑い日も寒い日も一日中外で作業されている工事関係者の皆さんには頭が上がりません。季節の変わり目、皆様もご自身の体調管理にお気を付け下さい。(O.N)



患者様の権利

- 1.安全で、かつ平等な最善の医療を受ける権利
- 2.疾患の治療等に必要情報を得、また教育を受ける権利
- 3.治療法を自由に選択し、決定する権利
- 4.プライバシーが守られる権利



- 5.常に人としての尊厳を守られる権利
- 6.医療上の苦情を申し立てる権利
- 7.継続して一貫した医療を受ける権利
- 8.QOLや生活背景に配慮された医療を受ける権利

平成25年11月1日発行

編集・発行：広報委員会（橋本(喜)、仲地、中川、山元、太田、中島、天野、山田、村上、前田、岩崎、笹田、郷原、小坪、大庭(直)、大庭(三)）

発行所：独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター

〒842-0192 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町三津160

TEL 0952-52-3231 Fax 0952-53-2864

ホームページ <http://www.hizen-hosp.jp/>